

令和2年度第2回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和2年11月25日(水) 10:00～11:50

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 構成員7名 事務局5名

(構成員)

藤本 真里 座長 米谷 啓和 副座長 大塚 優子氏 安積 英孝氏
川石 雅代 氏 福永 強 氏 橋 正人 氏

(事務局) 市民参画部 平石部長、市民活動推進課 藤保課長、
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃所長 岸本主任 得平主任

次 第

1 開会

2 議事

(1) 来年度のセンターの講座について
報告事項

(1) 夏のボランティア体験について

(2) 令和2年度ひめじおんまつりの進捗状況について

(3) センターの団体登録要件の改正にかかる連携中枢都市圏構成市町へのアンケート結果
について

3 その他

4 閉会

会議の進行記録（要点記載）

座 長： 来年度のセンターの講座について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局： 議題1 来年度のセンターの講座について
説明

座 長： 以前、皆さんに講座の内容についてのアドバイスや講師の紹介をしていただいたら、より充実するのではという議論から、この議題がとりあげられた。皆さんからのご意見をいただきたい。

構成員： 市民活動やボランティアは、世間で認識された頃から比べると大幅に変わってきている。イベントのボランティアなどもあるが、私は特に市民活動、地域の活動に力を入れていかなければならないのではと思う。私は30年後の兵庫県のあり方を検討する会議に参加しているが、駅周辺と郊外に住む人の意識の差が非常に激しいと感じている。駅周辺の人は、能楽堂だったりお城関連の施設だったり、あったらいいなというようなハード面に気が向いているが、郊外に住む人は、30年後にはここに住んでいないかもしれないという危機感を持っている。なので、将来を見据えて、地域で核になってくれる人がほしい。つまり地域活動的なことをする人を養成するような講座があったら良いと思う。しかも、1回2回だけじゃなく数年単位の長いスパンが良い。

座 長： 地域のコミュニティ支援の必要性は非常に大きな課題であり、このセンターとは別に市民活動推進課において事業が進められている。センターは市民に向けて広く門戸を開いてる場所という意味において、その一端を担っていると思う。ただ、実際にセンターでまちづくり担い手養成講座を開催した時に、郊外の方が受講されるかというそれは疑問である。そういう方々が受講されるにはどのような発信が必要か考えた時、その方々が課題に感じていることをテーマにし、その成功事例がある地域の方が講義や事例紹介をされるなどが良いのではないかと思う。そのテーマについて、ご意見をいただきたい。先ほどのご意見だと、地域づくりの重要性や、組織運営や、地域の将来図などを2~3年かけて、実践的にワークショップのような形式を望まれているのかと思う。それは地域の発案で近くの公民館などで開催すれば参加されるだろうが、その地域から離れたセンターで開催しても参加されないと思う。例えば公共交通機関の空白地域で、地域の輸送サービスなど成功した事例をテーマにするなど、地域の方々のアンテナにひっかかる話題は何があるか。それと同時に今後はリモートを推進して、遠隔での受講を可能

にするための技術的な部分の整理、それも必要になってくる。

構成員： 前回の提案事項にあるように、地域の会合が困難な状況でオンライン会議をはじめてみると、移動時間の短縮など便利さを感じる面もある。市民活動団体のオンライン会議を支援できるような講座があれば良いのではないかと。スマホなど簡単なツールでもできるので、特に年配の方で苦手意識がある方にも敷居も低い。そこから連携して、センターの相談業務もオンライン相談を始めてはどうか。同時に始めることによって、オンライン相談自体の使い方講座ができるかと思う。

座長： 大学生と少し高齢の方が集まる会議に参加した際、地域の情報発信はインスタグラムを利用すれば良いと、大学生が実際に高齢の方に操作の方法を説明する場面があり、その光景が素晴らしいと感じた。そういう分野は確実に大学生や高校生の方が詳しいので、地域の方を対象に大学生が教える SNS 講座のようなことをすれば、大学生にもアルバイト感覚で気軽に来てもらえて、良い交流になる。ただ、講座のタイトルに SNS という文字を入れると、その時点で高齢の方は自分に関係ないと思われる可能性もあるので、「大学生から学ぶ・・・」とか、「大学生と交流する・・・」など、タイトルを工夫してほしい。

構成員： 先日、南山田でため池の水を全部抜くイベントがあったそうだが、広報が不十分で参加者が少なかったようだ。どんな生物が生息しているとか、ため池の水を抜く意味や、地域の農業での効果とか、子供にも触れてほしかったので参加したかった。そういう情報をインスタなどで発信すれば良いと思う。今、ツイッター、フェイスブック、インスタなどの SNS ツールの利用を見ると、20代の方は圧倒的にインスタが多い。SNS をきっかけに参加してもらえたら人とのつながりができるので、SNS を使った情報の発信の講座というのは、効果的だと思う。

構成員： 地域情報の発信と言えば、公民館だよりがあるが、あれは全市内に配架されているのか。

事務局： 市立の公民館が、だいたい小学校区に1つ、市内で70近くあるが、それぞれが月に1回程度公民館だよりを発行している。その公民館での配架や、市の生涯学習課のHPでも内容を掲載しているが、市の広報媒体としては紙ベースとHPに留まっている。自分から積極的に見に行かないとたどり着かないというところが課題である。

座長： ネット上で検索したら出てくるということだ。情報を得ようとする、見る側から

のアプローチも必要だと思う。

構成員： 社協が関与されている地域のニーズ調査などによって、地域の問題点や要望が上がってくると思う。私はいちいち公民館だよりを見に行くこともないが、ここにこういうものがあるという周知はあったほうが良い。地域のニーズとして考えられるのは、交通が不便な地域の人が買い物をする場合などがあるが、資格無しで輸送できる仕組みもあるので、そういった養成も必要ではないかと思う。

構成員： 山田町は後藤又兵衛の生まれ育った地域だということで、「又兵衛酒」を作っている。地域での酒席で又兵衛酒を作ろうと盛り上がった時に、農協の飲料担当をしていた人が同席しており話が進んだ。空き地に米を作って、その米を酒屋に委託して作ってもらってという一連の作業をボランティアでやっている。

座長： 山田町は地域活動が活発だということが他の地域でも認識されているのであれば、そういう地域の方に講師をしていただくと効果的だ。はりまの酒ということで姫路らしさがでる講座にもなる。他にそういう地域はないか。

構成員： 船場川の地域のホタルとか、あの城西のあたりの環境の話をしてもらうのも良い。

構成員： 例えば、ホタルの飼育をしている姫路工業高校の先生と連携してはどうか。ジャコウアゲハもやっている。

構成員： 町おこしの関連だと、姫路城の藩札が香寺町で作られていたことから、香寺町で和紙作りを再現したことがある。原材料に兵庫製紙のパルプを提供してもらって作った。

構成員： 多可町の杉原紙の体験に行ったが、確かに歴史にも関連して話を聞けるのでよいと思う。

構成員： 今、NPO で困っていることが情報発信の方法である。今までは HP での発信だけで良かったが、今はツイッター、フェイスブック、インスタなど SNS ツールが多すぎて、情報発信するのに非常に手間がかかる。1つのツールに記事を掲載すれば全てに連動させられるといった技術を学べる講座があれば良い。他に NOTE というツールなども広まっており、記事の内容による使い分けや、どの世代に向けて、どのツールを利用すれば効果的かということ学べるとなると良い。

構成員： 市の総合計画を見ると、素晴らしいことが書いてあるが、また2~3年後も同じことが書いてある。計画を立てたあと事業をしたということに留まり、チェックがない。センターのボランティアとは関係ないが、官民一体で動かしていくべき。役所が考えた計画が進んでいないという状況から、地域でエンジンになって動く人の養成が求められているのではないか。写真の撮り方講座など開催してもどうかかなと思う。

構成員： インスタなどの情報発信には写真が必要なので、ニーズはあると思う。

座長： 地域と行政が一緒にやらなければならないというのは、市の施策として考えなければいけない大きな課題で、一朝一夕でできるような単純なことではない。そのような中で、センターとしてできることは何か。例えば、センターと団体の人達が連携して、皆が注目されるような興味深いことをやっていくとか。理想論だけでは誰も聞かないので、実際に何かアクションを起こしていくべきだと思う。そういう意味では、講座はもっと手前の段階の事業になるのだが、こういう写真の撮り方講座というのも大切かと思う。

構成員： 国連のSDGsの取り組みが企業では進んでいる。市民活動やボランティア活動にもSDGsの視点を取り入れることは大変大事だと思うので、そういう内容も講座に取り入れると良いのではないか。

座長： ご存知なら、講師を紹介いただきたい。

構成員： 姫路女学院の山田学院長に講師をしていただいてはどうか。

座長： 山田学院長は、SDGsの立ち上げから深く関わっておられ、SDGsを広げるために尽力されておられる。事務局は、今日出たキーワードを参考に、新しい講座を検討してほしい。

座長： では、次に報告事項1を事務局から説明をお願いしたい。

事務局： 資料2
報告事項1 夏のボランティア体験について
説明

構成員： 私の団体では今年度は新型コロナの影響で応募しなかったが、昨年度は学生を受

け入れた。うちの事業自体は、昨年度ほどではないが徐々に再開しており、参加者の保護者の方がやってくれてよかったと言っておられる。コロナの影響で来年度の夏休みの期間もどうなるか分からないが、この夏のボランティア体験は1回だけの参加で終わりではなく、複数回来てもらって作り上げる過程も体験していただきたいというのが希望である。

構成員： 夏のボランティア体験において、参加者側と受け入れ側双方の、そもそもの目的は何か。

事務局： 学生側の目的としては、若い人の担い手育成や、きっかけづくりという意味で、夏休みにボランティアの機会を提供している。他市で始めていた事業を参考に事業化した。また、上郡高校の先生から、1年生にボランティアをさせたいのでボランティアの説明をしてほしいという依頼があった。説明にあたって、当時、ボランティアの情報をまとめたものがなかったので、プログラムを作ることも必要ではというセンター側の意図もあった。

構成員： 学校の制度の受け皿にもなっているということか。今年はコロナ禍で特殊だったと思うが、3回目ということで1年目から改善したなど変わってきたことはあるか。というのも、登録のNPOや市民活動団体に受け入れの要請があるが、うちは受け入れをしていない。理由は、1回だけ参加となると、受け入れ側はお世話に手間と時間をとられて大変というのが本音である。1回だけだとイベントで終わるが、複数回することで学びの場としての意味が出て来る。複数回参加のメニューや1回だけのメニューを受け入れ側が選択できるようにして、4回目でバージョンアップを検討してはどうか。

事務局： 幅広くメニューを作って、受け入れるようにしたい。

座長： では、次、報告事項2を事務局から説明をお願いします。

事務局： 報告事項2 令和2年度ひめじおんまつりの進捗状況について
説明

構成員： 実行委員長が高校生なので、みんなで助けていかなければならないと思っている。しかし若い力は必要だが、今までのしがらみもあるので、内容を知る人がまとめ役としてひっばっていくのが良いと思っている。今回は特別編なので団体とのかかわりが少ないが、通常の開催ならそこは考慮すべき。

構成員： 結果的に、3人の副委員長がフォローし続けている。本人にどうしてもやりたいという熱い思いがあるので、それを買った。やはり一度決まったら、それをフォローするのが我々の仕事だと思う。ただし、なんでもOKということではなく、辛口なことも言われて、実際の会議はこうだということを知る必要もある。また、家族と学校に経緯の説明はするよう伝えている。学生だという立場を自分自身でわきまえておくべきだし、サポートする側の我々も認識しておくべきだと思う。

構成員： 今回のひめじおんまつりはパネル展示になったが、私は反対していた。舞台発表の団体の方はコロナ禍で活動できていないので、発表の場を与えたいという思いがあった。

構成員： 今年ついでに予算は使いたいと思い、動画の作成をすることになった。展示プラス動画というカタチで落ち着いたので良かったと思う。

構成員： 動画はほかでも配信できる。データを持っていれば、それを活かした広がりができる。

座長： 何団体くらいが動画を撮られるのか。

事務局： 自分たちで動画を撮って持ち込む団体と、動画撮影を希望される団体あわせて14団体になる。

座長： それでは次、報告事項3について事務局から説明をお願いしたい。

事務局： 報告事項3 センターの団体登録要件の改正にかかる連携中枢都市圏構成市町へのアンケート結果について
説明

構成員： 参考のチラシにあるが、連携中枢事業として初めに進んだのが、この図書館の連携で、他の部署もいろいろと検討している。アンケートには、よくこれだけ詳細に答えてくださったと思う。今後、姫路市を中心に他の市町のボランティアの担当課とセンターと一緒に会議などをして、情報の共有をしていってもらいたいと思う。

構成員： アンケートの回答を見ると、施設を利用するかしないかという目線が多い。活動

の交流という目線からの回答があったらなお良かった。

構成員： NPO 法人含め、近隣市町から姫路市の団体に参加される方はおられるので、個人としては交流されている方もいる。行政間同士で会議の場を持つなどの交流も大事かと思う。福崎町などはカップで盛り上げるなど、地域活性が活発だ。

構成員： 福崎町では柳田國男さんのゆかりの屋敷を宿泊施設にしたり、神戸新聞社と連携して情報発信もしている。

構成員： 現状のまま保存する方向に考えがちだが、それを活かすという発想はすばらしい。福崎町は観光にしても、コンパクトにまとまっている。今までいろいろ考えてやってきた成果だと思う。

座長： 福崎町からそういった地域活性の仕掛けをしている方に講師を依頼してセミナーを開くと、姫路の方から見たら勉強になる。

構成員： この登録要件の緩和というのは8市8町の連携の話からという説明だったが、ハード面の運用の緩和だけでなく、それに合わせた事業とか交流などのソフトの部分について議論はあるのか。

事務局： この事業には、今後お互いが交流するために、まず最初は姫路市が門戸を開いて登録要件を緩和して、まつりの参加団体を増やしたり、姫路市の施設の減免を適用することで交流する場を設けたり、というところから始めたいと思惑がある。ゆくゆくは図書館のように、姫路市の団体が近隣市町に行って活動できるとか、お互い交流できたらよいと思っているが、今年度は姫路市からということで進めている。

構成員： 今年はまずはハードを開くというところからだが、今後はソフトの面の交流もやっていきたい。そういう部分でセンターができることもきっとあるように思う。相談業務とかも入ってるのか。

事務局： 相談業務も入っている。

構成員： 逆に近隣市町からの情報も得たいと思うので、情報交流でもつながっていくとよい。

構成員： 自分たちと同じような団体があったら、独自にアプローチしてもらうことを目的に、近隣市町のボランティア団体の一覧など情報を提供するのにも良いのではないかな。

構成員： アンケート結果には、合併前の旧町の身近な集落の中でしか活動されないグループがほとんどという意見がある。これは残念に思う。

構成員： ふれあい喫茶などは、地域を少しでも活性化しようという集まりで、それは他の団体に来てもらうことは想定しておらず、小さな単位の地域の交流が目的である。なので、そういう意見が出ても仕方がない。

構成員： 印象としては、それは地域の世話役のようなレベルかと思う。いろいろなレベルというか層があっていいと思うが、そういう人達こそ他がどのようにしているのか知ってほしい。

座長： 市で連携中枢都市圏構想というのがあり、平成 25 年から姫路市が幹事市になって進めている。経済活動が中心だが、まずこの構想について市民が知る必要がある。市民活動のグループも、この考えが元になって、いろいろな動きや連携事業があることを知りうることが大事だと思う。センターがどうするかだけでなく、センターがまずは発信していかないといけない。

構成員： 田舎の小さなコミュニティでの活動もあるが、街中ではふれあい給食というのがあり、その目的の 1 つに地域の高齢の方が元気に暮らしているかという確認の意味もある。どちらも 1 つのボランティアのカたちだと思う。ただ、そういう小さなコミュニティで活動されている方が、一歩踏み出してもう少し先に進んでみようとなることをこの会議で協議することが大事なのではないかな。

構成員： 市町連携において活動の交流を目的に、次のステップをどうするかというところを考えたい。太子町や上郡町など前向きな考えを示されている市町との連携を深めて、何か一緒にやっていく。私は、美術館の友の会に関係しているが、会員は姫路市民よりも周辺市町の方が多い。市立美術館がない地域の方が多いので、そういう要因もあるのかと認識した。それは、個人レベルのつながりであって、そこと団体活動とのつながりがない。そのつながりを紡いでいく方が目指している方向に早くたどり着く気がする。相談業務において、何か周辺市町と連携してこういうことをやりたいという相談窓口があると良い。そうするとそこにアイデアが集まってくる。これをしたいなら、こんな人がいるという紹介だとか、既存の

団体だけでなく新しく団体を作ろうという人たちをサポートし、促進するような機能がセンターにあればいいと思う。

構成員： キャパの問題もあるが、ひめじおんまつりを周辺の市町にも広げて、広く参加団体が集まると良い。

構成員： 「ひめじおんまつり」から「はりまおんまつり」になる。

構成員： 船津町はスーパーも病院もなくコンビニも少ない。しかし、そんな状況でも船津町はいい所だと思う。それはなぜかという、1キロも行けば香寺町の図書館やスポーツセンターがあるし、福崎町のグランドゴルフの全天候型の施設も近い。昔は自分たちの町に何もかも作って欲しいという風潮だったが、今は近隣の市町の施設などを利用できる方法と手段さえあれば良いと思う。お互い、広い範囲の中で利用し合えると良い。

構成員： 行政レベルで広域連携都市圏の8市8町というのはあると思うが、民間や市民レベルでこの連携の関係はあるのか。例えばネットワークとか協議会とか。

事務局： 官民連携で地域ブランドの確立などはあるが、それも行政が関わっているので、純粋な民間レベルというのではないと思われる。

構成員： 市民や民間レベルで何かが生まれてきそうな気がするので、そういった市民活動の連携というのが始まったらいいなと思う。

構成員： 何に重きをおいて連携していくか。8市8町で防災関係で連携はできており、持ち回りで定期的に会議も開催している。

座長： 施設のハード面の考えはよくわかったので、ソフト面の交流の部分を、これからのセンターの事業の中でも充分意識して行ってほしいという皆さんの意見であった。

座長： 議事等については以上になるが、他に何かあるか。

事務局： 1点報告したい。現在、姫路市市民活動・協働推進事業計画の改定について、藤本座長を始め学識経験者の方々や関係者の方々にご参加いただき、検討懇話会を開催している。先週11月17日に開催された第3回での意見を踏まえて、事業

計画の素案を完成させ、来月下旬から市民の皆さんにご意見を伺うこととしている。パブリックコメントの日程は、12月21日(月)から来年の1月29日(金)までを予定している。ご意見等あれば寄せていただきたい。

座長： 現行計画が第3次計画で、次は新たな局面の第4次計画に入る。計画の中にはボランティアセンターの充実という項目もあるので、是非ご意見を寄せていただきたい。

事務局： 次回の開催について日程調整

2月10日(水) 10:00からで決定